

少しずつ朝夕は涼しい日が増えてきました。この季節、たくさん遊んで体を動かし、健康な体を作っていきましょう。ご家庭でも、栄養バランスのとれた食事をし十分な睡眠をとって、健康な体を作れるよう心掛けましょう。

夏から秋にかけての子どもがかかりやすい感染症、今後の検診等について、お知らせ致します。

■ノロウイルス

通常 10 月から 2 月ごろまで感染のシーズンが続きます。ウイルスはカキやアサリなどの二枚貝に蓄積されますが、貝類からの感染より、感染者のおう吐物、排せつ物からうつる二次感染のケースが多いようです。

感染すると、激しい下痢やおう吐、腹痛があり、38 度以上の発熱も伴います。今のところ、治療薬は開発されていないため、症状が出たら水分を補給しながら回復を待つしかありません。

予防策は、食材の中心温度が **85 度以上で 1 分以上の加熱調理**をする、また調理前・配膳前・食事の前・排泄後(オムツ交換後)などに**せっけんでよく手を洗う**ことです。ノロウイルスを殺すことはできませんが、手から洗い流すことができます。

園で嘔吐した場合、集団感染予防の為、汚れた衣服をそのままお返しさせて頂くのでご協力をお願いします。洗濯機の汚染を防ぐ為、色落ちしないものは、塩素系の漂白剤に 10 分間浸してから洗濯して下さい。85℃の熱湯 1 分消毒でも効果があります。

■ロタウイルス

ロタウイルスは、感染力が高く 5 歳までにはほとんどの子どもが感染します。感染して 1～2 日後に、嘔吐、発熱で発症し、続いて頻回の水様性下痢が始まります。治るのにおよそ 1 週間かかります。

■RS ウイルス

発熱、鼻水、咳などから始まり、呼吸時にゼイゼイ、ヒューヒューという音が出るなどの呼吸器症状が特徴です。小さい子どもほど重い症状が出ます。2 歳になる頃には、ほぼ 100%の子どもがかかるといわれています。特効薬はありません。早めに受診して医師の指示に従って安静にして下さい。登園の目安は、呼吸器症状が消失し全身状態がよいことです。

■手足口病

小児期にかかりやすく、口の中や手のひら、足の裏・甲などに水疱性の発疹が現れて、1～3 日間発熱することがあります。水疱は、かさぶたにならずに治る場合が多く、1 週間程度でなくなります。

■流行性紅斑（りんご病）

頬が赤くなり、発熱や頭痛など、風邪のような症状になります。2 週間近くの潜伏期間があり、その後に発疹が出ます。特効薬はなく、安静に休んで治療します。

■とびひ

擦り傷や虫刺され、あせもなどに化膿菌が入り込んで水ぶくれができます。これを掻きまわした手で他の場所を掻くと、そこにまた水ぶくれが“とびひ”します。市販の薬を使うと、かえって症状が悪化する場合があるので、病院で正しい治療を受けましょう。

集団生活なので、冬に流行するインフルエンザは予防接種をおすすめします。

新型コロナウイルス感染症は、罹患された場合は必ず、ご家族を含めお知らせ下さい。

検診、検査の結果と予定

内科検診

年2回胸や背中を聴診器で健康状態を調べてもらいます。異常が見つかったお子さんには、個別にお知らせしています。

4月30日（水）に行った結果、異常があったお子さんはおられませんでした。

次回は、10月24日（金）です。



歯科検診

6月30日（月）の結果、虫歯等があったお子さんは、早めの受診をおすすめします。

（虫歯のあったお子さんの割合）

つばめ…14% はと…12% あひる…6%

ぺんぎん…7% ひよこ…0%

次回は、11月14日（金）です。



環境衛生検査

9月26日（金） 室内の照度や二酸化炭素濃度、衛生状況などを学校薬剤師に検査してもらいます。

園における薬の取り扱いについて（再度お知らせ）



園での投薬は、基本的に行っておりません。どうしても必要な方は、主治医の先生に「与薬に関する主治医意見書」を記入してもらい、薬と共に提出して持ってきて下さい。

医師の診察を受けるときには、お子さんが〇〇時から〇〇時まで在園していることを伝え、可能な限り家庭での与薬となるように相談して下さるようお願い致します。

食物アレルギーについて

食物アレルギーのお子さんは、アレルギー疾患生活管理指導表を、医療機関で記入してもらい、年に一回、必ず提出して下さい。解除になれば、アレルギー除去食解除申請書を保護者が記入して園に提出して下さい。アナフィラキシーショック症状のある方がエピペンを使用される場合は必ず申請を別に提出してもらい、その後担任、調理員と個別懇談を行い安全な食事を提供します。